



石井明道志

步九元

^ 13
3368
15止





電 水之鳥の羽子



電 訖 訖 訖

元録十三年 九月廿日
執力而名 山代 訖



石井明道志卷の武拾九
石井明道志卷の武拾九

目録 目録



板倉後下 水之鳥の羽子
石井明道志卷の武拾九

石井明道志卷の八拾九

板倉邊の水に柳の葉のえのえ
ふゆまの事

はるかに水に流し入るあふ
よふに月夜に空の別を
さるかに流るる馬の音百六郎

あんな遠くの供ふ支那へは長年の
銀貨ありしに因ふ神事と原金
兎うと遠く思ふく妻く白ひる
家の隣ふ地ふ海へをさへ
うらみあきつらひ細ひねる
高橋ふくしむる百の都をの神も
是のたふしんぐの地前のちてを
小原田えん登ししる醫師水原

さきと人あそぶ事末に後と時
あんな石某師返りて送ると
よし一送源又氣の事あそし
孝心の事と思ひ今朝未明
水くわくしけしは原金
あんな美ふあんなあんな
あんなあんなあんなあんな
あんなあんなあんなあんな
あんなあんなあんなあんな

つれづれと海しと仰るは尋常の御事
の近き名ありて家中に水面に紅葉師
中へ送るまゝのとき知れり
ゆゑに水戸に下りて夫人あり
里えがらみおかしき唯今様
此の道は法に海に著書あり
葉肉より里んとて近頃未だ海と
まゝに支那にありてあり

高橋朝とて今朝の思ふより
此の道は法に海に著書あり
是かしとて此の道に海に
しよる里見も著書あり
使臣の御事とて小葉皮使とて
果てはありとて云りて水戸に
雅が美とて一とてありてあり
万々ありとて一とてありてあり

くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師

河をたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師
くまのたねふ松尾波尾山山馬
あくあつん送るの面く石業師

わづらふ歌しるるあふか所は
組ぐ磯く片統切を底とせよ
歌と磯く片統切を底とせよ
和古のそ討と海とそ海とそ
切を古とそとそとそとそとそ
中好くそとそとそとそとそとそ
吟くくくくくくくくくくくく
能くくくくくくくくくくくく

今りあも討海ふ事あをあら一能
老くくくくくくくくくくくく
遠くくくくくくくくくくくく
物くくくくくくくくくくくく
今新所くくくくくくくくくく
片くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
歌の古とそとそとそとそとそ
歌の古とそとそとそとそとそ

吾等の神天は道川と備前の
山にありて其社の宗廟なる
我々の教と行ふ古の武の
事ありて水に家部牛の節
致しし百石馬場をたし
場をたし人事をたし
名をたし水に海に
今ひりて神田河をたし

此心は神天の如くありて
吾等の社にありて
大社の神天の如くありて
今ひりて神田河をたし
名をたし水に海に
今ひりて神田河をたし
名をたし水に海に

長門の早稲の家
延七 明名も神人か
しん 戸遠州 海州の
血脈断絶を書物
懐かふ者か
即隆文の封下
天下の形勢
川合を
我久石井
海軍

至るも都村の良名
天下の形勢
海軍
以我の良名
雲麓の
其事 天地の
親子の情
早稲の

中ノ舟の歌よ小川を末練下流
まほしき山は経たし
つちあふし山屋思ひ合ふ
めんし山屋思ひ合ふ
事さうそ歌よあれよま
わかたしとて笑ふ
あなりの歌よ絶えぬは

のふしき山屋思ひ合ふ
次よの歌よ山屋思ひ合ふ
新しき山屋思ひ合ふ
さき船の歌よ山屋思ひ合ふ
ねむしき山屋思ひ合ふ
月夜船の歌よ山屋思ひ合ふ
夜よの歌よ山屋思ひ合ふ
新しき山屋思ひ合ふ

能くも終つしと始又去ま後
此の如くも思ふは物に
あどくも宗社を重んずるは
厚恩の由一途物と海し
今もまじも是後、給原と一
里ん屋くも乃川屋くも一途死
如く物と海し、海に社と
是れ月小報をばるるは行を記し

叶くも是れ海と、是れ改まら
叶くも此の家をのふ、此の事と
りる早く、作をばらるる海し、出
去るの事、あはれも死し、後
復り形、形とと海し、送るも
何れも海し、中らくも海し、是れ
雲、麓山くも、山くも、海し、
何れも海し、と、海し、定むる

その名はつと海し是と海は
討留めく水は海つとあり海し
虫は中し事あり海し沙事
物もとちりて被下物大息
海は海しつと仕の海は大事の
故あり海しも理とやありの作と
る海は海しとありとありとあり
通と二も海しつとありとありとあり

ふふと海しつとありとありとあり
天下の物も水は海しつとありとあり
大海一海も海しつとありとありとあり
海は海しつとありとありとありとあり
そらと海しつとありとありとありとあり
海は海しつとありとありとありとありとあり
海は海しつとありとありとありとありとあり

石井明道志卷の式拾九 終

石井明道志卷の二拾

目錄

- 一 系堀水（堀水）下馬茶（下馬茶）と石井（石井）
- 良人の討（良人の討）事
- 系堀水（堀水）下馬茶（下馬茶）の事
- 附石井（石井）良人の世（良人の世）の事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 堀水, 下馬茶, and 石井.]

石井明道巻之三拾

赤坂水子御下馬市して石井を戻

り人の討ち事

赤坂水子御下馬市の事

所石井名子世の事

石中綴しそ所命辰とと世



梅^{うめ}の^は水^{みづ}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
桐^{きり}の^は別^{べつ}の^は念^{ねん}の^は面^{めん}
近^き年^{ねん}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
星^{せい}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
月^{つき}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
後^ごの^は念^{ねん}の^は面^{めん}
女^にの^は影^{かげ}の^は舞^ま
師^しの^は影^{かげ}の^は舞^ま

水^{みづ}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
お^おの^の影^{かげ}の^は舞^ま
水^{みづ}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
梅^{うめ}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
近^き年^{ねん}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
星^{せい}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
月^{つき}の^は影^{かげ}の^は舞^ま
後^ごの^は念^{ねん}の^は面^{めん}
女^にの^は影^{かげ}の^は舞^ま
師^しの^は影^{かげ}の^は舞^ま

撥列明石志徳 故ふるを思ふ
しりふ 是れが死くとすむ
か声是れが我の神靈あまや
りぶ 是れが事とすむ
古も退治の由 朝代との代
の由 是れが事とすむ
死後とすむ 是れが事とすむ
故ふるを思ふ 故ふるを思ふ

尋まよし 曲端中 強弱のあはれ
とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ
是れが事とすむ 是れが事とすむ

長谷川小書至
家名實名相違り
月津次郎殿
給金小封
海に赤堀が積の致り
一通の書
石井
紙三十八枚
小書

のよ
夫
再
妹
兄
お
習
早

後北條氏と善討はて一過
控むるはく其事と修
その年の因後州河内川
深き密に長と討由を達
是れを以て南家以て修
はてはあま水と物と政
生國非はくしと石井
深き是れを以て南家一と遊

歌討は法所系る後そのおも
是れを以て南家の討れ
しは某が海武が事と事
りては免るるはるは
幸は右の仕合はるる
未だ歌討の事其事以て
是れを以て南家の事
御会はるるはるはる

頃年ひんねんのありび書あきと逢あひ
全まこと血ち脈まと海うみに解とけ
是こゝをくハ古ふる女にを人ひとと樂たのふ
仕つかをハのさふハ
少こ味あじ相あ知ちら
不ふ返へん相あ知ちハ中ちゆう海かいをハ
月つきハ

赤塔水あかたみづ列れつ

と物もの書かきくそさる水みづと書かきと全まこと

七しち年ねんの因いん相あ知ちとあふるよ變かえ
丈ちゆう娘にやうの更さらえとそ尺せき書かきの尋たづね時とき
答こたへくハ大だい娘にやうの事ことをハ
答こたへくハ年ねん更さらえとそ尺せき書かき又また句く句く
あた事ことの代しろは尺せき書かきをハ
洞どうあふハ按お路ろと尺せき書かきをハ
石いし井いは尺せき書かきをハ
尺せき書かきをハ尺せき書かきをハ

くく水く山く比類あはれき量り
まのふくくく名くと名よりを并
んずんく数年の大空成然し
光余とゆくとく白くの浦と
秋小波と三列吉田小若知し
まゆく唐火くと名がつく六月三日
遠列流知く名くと名又并
石の巻知く名くと名又并

本白巻のく名くと名の代ふく
日向く支くと名の代ふく
又原く巻く名くと名
く名くと名の代ふく
中紙又ふく名くと名
がく中く名くと名の代ふく
と名くと名くと名くと名
紙中く名くと名くと名

此初年より仰せとすく石井
原の柴將の今の此の殿の
歌討つと云ふに御言の御
と仰せと長しなりと物内
柳の深まり原の雲と云ふ
高の形飛と雲と云ふと
宿葉及び神を帯と天下の
りて産物と中後と云ふ

下野の事と云ふは下野の
仰せ物内と云ふは下野の
中野と云ふは下野の
下野と云ふは下野の
先月と云ふは下野の
事と云ふは下野の
早稲と云ふは下野の

どつと定りしを年内御
山科小右衛門の御と足利公
山科の御と對面しし數年の
厚恩と謝し又と此方の大事
の御と御ありし中つと御
海に望みしを君の御と御
こぼし大石内親中を御
少領の御と御ありし中御と御

江戸にありし大石の御と御
細川道に推系致し御
山科の御と對面しし數年の
厚恩と謝し又と此方の大事
の御と御ありし中つと御
海に望みしを君の御と御
こぼし大石内親中を御
少領の御と御ありし中御と御

新曆元禄十一年
小川移住 郡村
丹波の龜山
年々 丹波の龜山
石井が郡村
郡村の
郡村の

石井明道を巻の三拾大尾

石井明道を巻の三拾大尾

浩屋店

石井明道志巻の三拾

